

ミラーハンガーのパイプ長さの決め方

■ 計算式1

●ミラー傾斜時の高さ $F = \text{係数} \times J$

※(F)の計算方法

45°の場合 $F = 0.70 \times J$ 35°の場合 $F = 0.57 \times J$
 40°の場合 $F = 0.64 \times J$ 30°の場合 $F = 0.50 \times J$

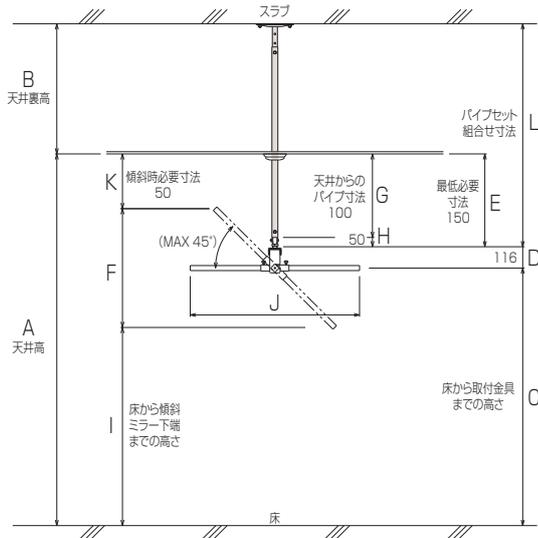
●傾斜時必要クリアランス寸法 $K = A - I - F \geq 50$

■ 計算式2

●床からミラー取付金具までの高さ $C = I + (F/2)$

●天井から出るパイプ寸法 $G = A - C - D - H \geq 100$

●組合せパイプ長さ $L = G + B + H (50)$



- A 天井高 : 床から天井までの高さ
- B 天井裏高 : 天井裏(フトコロ)の高さ
- C 床からミラー取付金具までの高さ(ミラー取り付け芯)
- D ミラーハンガーの金具類の高さ(116mm)
- E 最低必要寸法(150mm)
- F ミラー傾斜時の高さ
- G 天井から出るパイプ寸法(100mm)
- H ミラーハンガー本体付属パイプ長さ(50mm)
- I 床から傾斜ミラー下端までの高さ(目安2000mm程度)
(但し、使用状況によっては作図等で適当な位置関係の確認をお奨めいたします。)
- J ミラー外形高さ
- K 傾斜時必要クリアランス寸法(※最低必要寸法=50mm)
- L 組合せパイプ寸法

■ 計算例 ※寸法は全てmmです。

天井高(A)を3000、天井裏高(B)を500、床から傾斜ミラー下端までの高さ(I)を2000とした場合。
 ミラーハンガー [RM-1809F ミラー外形高さ(J)=900] を最大傾斜角度45°で使用する場合。

計算式1より

傾斜時必要クリアランス寸法(K)を計算し、天井に干渉しないか確認します。

- $F = 0.70 \times 900 (J) = 630$
- $K = 3000 (A) - 2000 (I) - 630 (F) = 370 (\geq 50)$

計算式2より

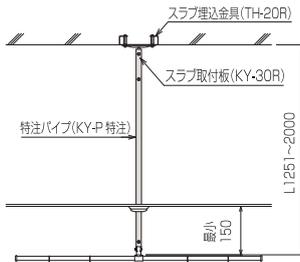
- $C = 2000 (I) + \frac{630}{2} (F/2) = 2315$
- $G = 3000 (A) - 2315 (C) - 116 (D) - 50 (H) = 519 (\geq 100)$
- $L = 519 (G) + 500 (B) + 50 (H) = 1019 + 50 (H)$

P.107のパイプセットからRM-P110Sを選択し、組合せ寸法aの位置1100で組立ててください。

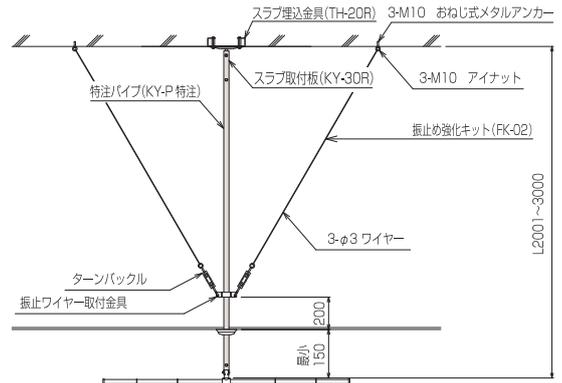
※スラブが傾斜している場合は傾斜自在型スラブ取付板(KY-30F)をご利用ください。
 ※組合せパイプ長さ(L)=1251mm以上は下欄の特注パイプをご参考ください。

特注パイプ

■ L1251~2000



■ L2001~3000



必要なパイプセットが規格寸法に合わない場合には特注パイプにて対応いたします。

組合せ寸法L=1251mm以上は、特注の長尺パイプ(特注KY-P)で対応いたします。

尚、組合せ寸法L=2001mm以上は、別途振止め強化キット(FK-02)が必要となります。(▶ P.107)

組合せ寸法L=3001mm以上の場合には別途ご相談ください。

1251mm以上の特注パイプにはM8ボルトセット(ボルト、ナット、ワッシャー)×1が付属します。